

令和6年産米の秋田県の「生産の目安」について

令和5年12月5日
秋田県農業再生協議会

令和6年産主食用米の本県全体の「生産の目安」について、令和5年12月5日に開催した当協議会臨時総会において、次のとおり決定しました。

令和6年産の秋田県の「生産の目安」 401,300トン
(面積換算値 69,549 ha)
※5年産米目安面積比 100.6%
5年産米実績面積比 99.5%

令和6年産米の県の「生産の目安」について

1 算定方法

本県の「生産の目安」は、

- ・全国生産量と県産米シェア（平年データ）から算出した数値（目安A）と
- ・需給動向（直近データ）と在庫量から算出した数値（目安B）

の中間値を基本とし、必要に応じて「販売状況を踏まえた補正」を行って設定している。

2 算定に用いる数値

(1) 全国需要量と県産米シェア

直近7カ年の県産米シェアと7中5平均

年産米	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	7中5 平均
全国(トン)	7,540,000	7,396,000	7,346,000	7,143,500	7,040,000	7,015,000	6,911,000	-
秋田県(トン)	413,615	399,388	436,760	433,456	443,083	417,616	419,589	-
県産米シェア(%)	5.4856	5.4001	5.9455	6.0678	6.2938	5.9532	6.0713	5.9047
平均値採用	○	×	○	○	×	○	○	

出典：米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和5年10月）

(2) 在庫量（期末在庫量（6月末））

これまで、県産米の米価が安定すると見込まれる在庫量10～12万トンを適正在庫量とし、この範囲を維持できるよう生産の目安を設定してきた。

こうした中、行政と集荷団体が一体となって作付転換や販売促進に取り組んだことに加え、2年連続の不作により、令和6年6月末在庫量は8.2万トンとなる見通しである。

一方、米価は回復基調にあるものの、現在の需給環境をより確かなものとするため、令和7年6月末在庫量は、6年6月末在庫量と同程度である8.2万トンとする。

(3) 国の需要見通し（国によるトレンド推計：令和5年10月基本指針より）

① 平成8/9年～令和4/5年までの1人当たり消費量を算出

年	需要実績 a	人口 b	1人当たり消費量 a/b
	万トン	千人	kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4

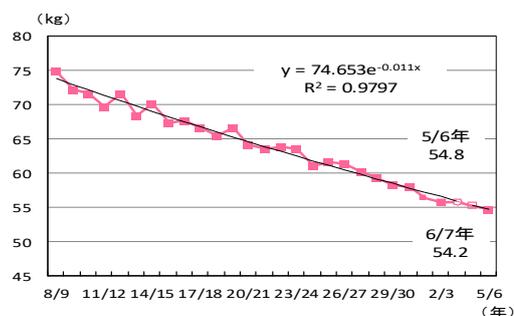
② 令和5/6、6/7の1人当たり消費量（推計値）を算出

年	x	1人当たり消費量 (y)
		kg
8/9	1	75.0
9/10	2	72.4

24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	127,042	59.4
29/30	739.6	126,919	58.3
30/元	734.6	126,749	58.0
元/2	714.4	126,555	56.4
2/3	704.0	126,146	55.8
3/4	701.5	125,502	55.9
4/5	691.1	124,947	55.3

24/25	17	61.2
25/26	18	61.7
26/27	19	61.5
27/28	20	60.3
28/29	21	59.4
29/30	22	58.3
30/元	23	58.0
元/2	24	56.4
2/3	25	55.8
3/4	26	55.9
4/5	27	55.3

5/6 28 54.8 (推計値)
6/7 29 54.2 (推計値)



※ 人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値。

③ 令和5/6年及び令和6/7年の1人当たり消費量（推計値）に令和5年及び令和6年の人口（推計値）を乗じて需要見通しを算出

	5/6年	6/7年	
1人当たり消費量（推計値）	a	54.8kg	54.2kg
人口（推計値）	b	124,450千人	123,886千人
需要見通し	c = a × b	681.6万トン	671.0万トン

注1：人口（推計値）は、「人口推計（総務省、令和5年9月公表）」の総人口（令和5年9月1日現在（概算値））に、「日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所、令和5年4月公表）」の令和5年10月1日から令和6年10月1日までの総人口（出生中位・死亡中位推計）の減少率を乗じて算出した値。

注2：図中の需要見通しは、1人当たり消費量（推計値）の実数に、人口（推計値）の実数を乗じて算出した値のため、図中の1人当たり消費量（推計値）（小数点第2位を四捨五入）に人口（推計値）（小数点第1位を四捨五入）を乗じて算出した値とは一致しない。

(4) 県産米の需要見通し

令和5年産米は、4年産米需要に、全国の4年産米から5年産米までの需要減少率を乗じて算出した。

令和6年産米については、5年産米需要見通しに全国の5年産米から6年産米までの需要減少率を乗じて算出した。

	4/5年実績	5/6年見通し (減少率)	6/7年見通し (減少率)
国需要	691 万トン	682 万トン (98.6%)	671 万トン (98.4%)
県需要	419,589 トン	413,821 トン	407,386 トン

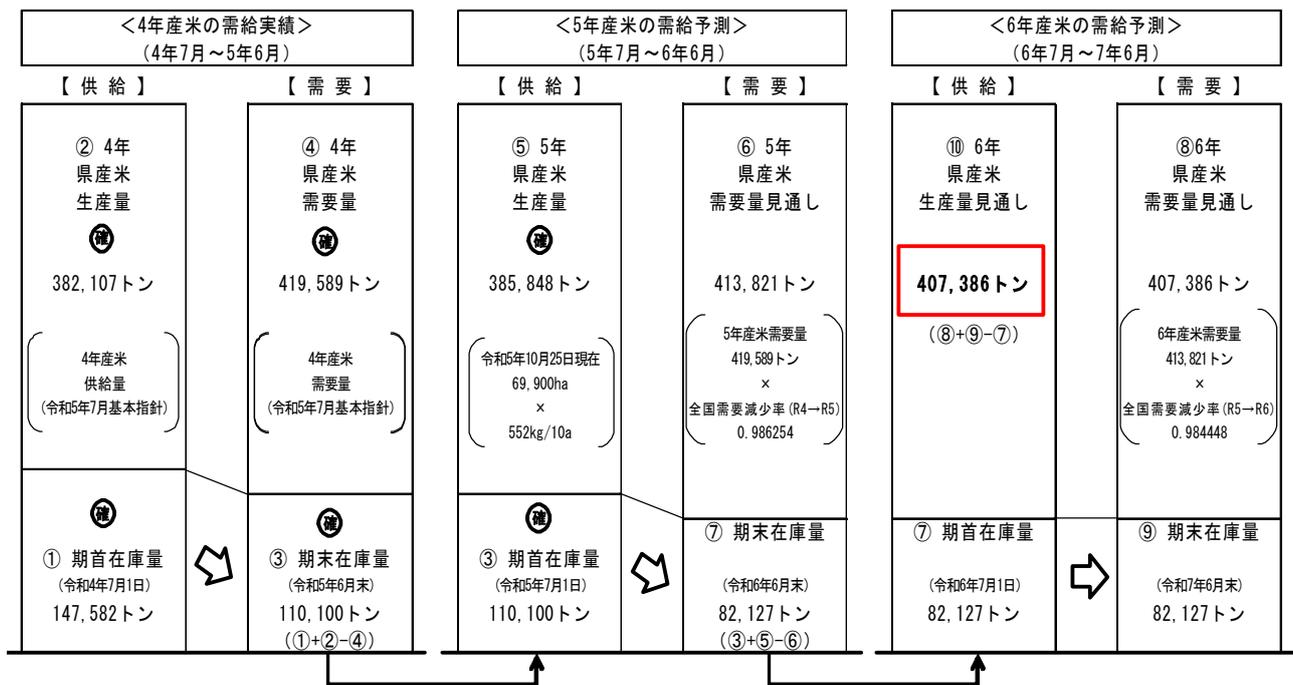
※ 国の実績及び見通し、4/5の県需要は5年10月基本指針より

3 令和6年産米の県の「生産の目安」の算出

(1) 全国生産量と県産米シェアから算出した数値 (目安A)

①6年産米全国適正生産量 (国見通し)	②6年産米(県目安) (①×県産米シェア5.9047%)
669 万トン	395,261 トン

(2) 県産米の需給動向と在庫量から算出した数値 (目安B)



(3) 目安AとBの中間値の算出

県目安A	県目安B	中間値 (A+B)÷2	令和6年産米「生産の目安」 (面積換算値)
395,261トン	407,386トン	401,324トン	401,300トン (69,549ha)

(4) 令和6年産米の「生産の目安」

令和6年産米の生産の目安は、国の基本指針及び現在の需給環境を踏まえると、

- ・国は令和6年産米の生産量を、5年産米の生産量の見通しと同水準としたこと
- ・回復の兆しが見えつつある需給環境をより確かなものとする
- ・県産米の安定供給の観点から、目安の算定過程において、現状の在庫量と同程度としたこと

以上のことから、令和6年産米の生産の目安は、補正は行わず、401,300トン(69,549ha)とする。

令和6年産米「生産の目安」 (面積換算値)
401,300トン (69,549ha)

R5年目安面積比 100.6%
(R5年実績面積比 99.5%)

【参考】

表1 全国及び主産県における4年産米需要実績 (万トン)

No.	産地	4年産米生産量	4年産米需要量	5年6月末在庫
	全国	670.1 (96)	691.1 (99)	196.6 (90)
1	北海道	49.2 (93)	53.4 (100)	19.8 (83)
2	青森	20.0 (95)	20.3 (87)	8.3 (97)
3	岩手	23.4 (92)	25.3 (100)	9.4 (83)
4	宮城	30.6 (92)	33.1 (96)	11.7 (82)
5	秋田	38.2 (90)	42.0 (100)	11.0 (75)
6	山形	31.3 (91)	32.2 (93)	10.9 (92)
7	福島	28.5 (94)	29.3 (91)	10.4 (93)
8	新潟	54.4 (101)	53.6 (97)	14.0 (105)

※ 令和5年10月19日 米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針より

※ ()内の数値は前年対比を示す

表2 全国及び主産地における主要銘柄の相対取引価格 (円/60kg)

No.	産地	品種銘柄	相対取引価格		
			5年産米 (5年10月)	4年産米 (4年10月)	5年/4年
	全国	全銘柄平均	15,181	13,898	109%
1	北海道	ななつぼし	15,520	13,628	114%
2	青森	まっしぐら	14,241	12,731	112%
3	岩手	ひとめぼれ	15,137	13,500	112%
4	宮城	ひとめぼれ	13,989	13,823	101%
5	秋田	あきたこまち	15,261	13,957	109%
6	山形	はえぬき	14,541	13,352	109%
7	福島	コシヒカリ(会津)	15,524	14,196	109%
8	新潟	コシヒカリ(一般)	17,208	16,510	104%

※ 農水省HP掲載データより作成(令和5年10月(速報))